

普及活動情勢報告（令和5年8月分）

中央東農業振興センター 嶺北農業改良普及所

適切な穂肥施用を！～「土佐天空の郷」水田巡回～



調査結果を記録中

7月19、20日の2日間、本山町特産品ブランド化推進協議会では、「土佐天空の郷」生産者34戸の圃場を巡回し、役員のべ19名が参加しました。

各地区ごとに、普及所と本山町農業公社は、水稻の茎数、葉色、幼穂長を調査して、その結果をもとに各ほ場の穂肥の時期や量について検討しました。

生産者からは「幼穂がみえてきた！もうそろそろ穂肥をやらんといかんね～」といった声や、病虫害の農薬散布時期についての質問がありました。

今後も普及所は、水田センサーで測定した気象データも活用し、収穫適期の予測も図り、品質・収量の向上を支援していきます。

米ナスの収量向上を目指して ～米ナス部会現地検討会～



現地検討会で説明する
普及職員

7月24日、JA高知県れいほく園芸部米ナス部会が現地検討会を開催し、部会員11名が参加しました。

JAからは耕種概要の説明および農薬散布時の防除衣の着用等について紹介され、ハウス資材メーカーからは太陽光発電による自動天窓設備について説明がありました。

普及所からは、防除体系に沿った病害防除などについて説明しました。

参加者からは「半身萎凋病が最近増えてきているが、どのように対策したらいいか？」などの質問が出され、活発に意見交換が行われました。

今後も普及所は、栽培管理技術の向上とスマート農業による効率化を目指し、JAと連携して部会活動を支援していきます。

ミニトマトの着果制限試験 ～栽培後半収量の増加を目指して～



調査の様子

大豊町のミニトマト栽培では、栽培後期の収量の低下が課題となっています。ミニトマトの単価は9月以降に上がるため、その時期に収量を確保できれば、収入増加に繋がります。

対策の一つとして、着果負担を軽減させるための摘花を行う「着果制限」があり、月別の収量差をおさえ、単価の上がる時期に収量を増加させる方法を実証しています。

普及所は、7月末まで1花房をそれぞれ20花程度に制限する区を設定し、生育・収量調査を行っています。

今後も普及所は調査により着果制限の効果を実証し、部会で情報共有して技術の向上に繋がるように取り組んでいきます。